

メヴラーナ博物館

2007年4月



メヴラーナ博物館

独特の旋回舞踏で世界的に有名なメヴラーナ教団の創始者ジェラルディン・ルーミーの霊廟。メヴラーナとは「我が師」という意味でジェラルディン・ルーミーを指す。

6,500㎡の敷地にはメヴラーナをはじめとする教団の発展に尽くした名僧たちの霊廟、資料室、修行場などがある。

アタチュルクの宗教分離政策により教団は解散、旋回舞踏は禁じられ、1927年に霊廟は宗教色を薄める形で博物館としてオープンした。

旋回舞踏も1970年代の緩和政策により再会され、大手ホテルなどで旋回舞踏ショーが開催されるようになった。

博物館として一般公開されているにも関わらず、まだまだ宗教的色彩を多分に残しているのか、女性は頭髪を隠すためにスカーフ着用がよりベターと案内された。

このメヴラーナ博物館で最も有名なメヴラーナの棺は眩いばかりの装飾が施された中に安置されている。

棺の上に置かれた帽子で、イスラムの僧侶としての階位の高さが表されているのだという。

また、霊廟の隣の資料室にはマホメット（ムハンマド）のあごひげを納めた小箱も展示されており、信者の皆さんが熱心にお祈り・見学をされていた。



メヴラーナ博物館
マホメット（ムハンマド）の
あごひげが納められた小箱（表）



メヴラーナ博物館
マホメット（ムハンマド）の
あごひげが納められた小箱（裏）



メヴラーナ博物館
メヴラーナの棺

その他にも、能書家による大小様々な美しいコーランの写本、999個の珠を連ねた数珠なども展示しており、見るものの目と心を釘付けにする。



メヴラーナ博物館
数珠



メヴラーナ博物館
コーランの写本



メヴラーナ博物館
コーランの写本

旅行記にもどる

メニューにもどる

HOME